

* 第6回 全国スキーバトリール技術競技大会

担当理事 洪山 国雄
報告者 高橋 賢一

1. 会 期 平成3年3月26日(火)～3月27日(水)(役員集合3月25日(月)16:00)
3. 会 場 福島県猪苗代・猫魔スキー場
3. 役 員(役職名明記)

会 長 堤 義明
副 会 長 松浦益司郎, 片桐 匡, 和田晋太郎,
大会会長 和田晋太郎
大会顧問 柴田 信一, 西山 実幾, 浅井清治郎, 若林 省三
大会委員長 丸山 庄司
大会副委員長 洪山 国雄
大会委員 畑山 匡, 元木 義夫, 青木 巖, 松田 正義, 片岡 春夫, 藤田 勉,
松井 貞彦, 中川 利夫, 水木 秀雄, 八木祐四郎, 菅 秀文, 戸籠福三郎,
海野 明, 平井 俊雄, 中村 圭彦, 金井英一郎, 上坂 徹弥, 五十島博文,
池上 三紀, 西村 寅輔, 酒井 寿, 小林 泰二, 菅家 哲朗, 大内 進,
渡辺 貞夫, 森 義男, 宗像 精, 小林 満, 清野 市治, 松井 喜義,
鈴木 光一
本部アドバイザー
藤島 幸造, 園部 勝, 井上 恵三, 野戸 恒男, 見谷 晶嗣, 植木 毅,
志賀 仁郎, 白石 嘉宏

〔組織委員会〕

委員長 洪山 国雄
副委員長 宮本忠五郎
委 員 高橋 賢一, 上平 尚, 内田 利夫, 栗城 啓一, 山内 春吉, 草なぎ俊一,
奥田 惇二, 福沢 洋治, 内田 時雄
総務主任 羽生 龍弘

〔競技役員〕

◎ 雪上競技 *印ジュリー

*技術代表 草なぎ俊一 *競技委員長 高橋 賢一
*競技係長 山内 春吉 *コース係長 小松山辰裕
*主 審 栗城 啓一 *決勝審判 奥田 惇二
出發審判 高橋 賢一(宮城)
旗門審判係長 阿部 宏希 計時計算係長 内田 時雄

4. 参加者(申込者数, 欠席者数, 参加者数)
参加申込...21チーム 98名
5. 概 況(会場場況, テーマ, 実施日程内容, 成果等の順に報告必要事項を項目別記載のこ)
3月26日(火) 大会開催日前夜迄に参加21チームが来場していたので, 予定より1時間早く監督会議を開催し, チームミーティングの時間に余裕を持たせる事にした。
活発な質疑のあとペナルティに対する見方の統一等を説明。
13:00より, 開会式を行なう。SAJ 和田副会長が大会会長として, 地元福島県スキー連盟を代表されるの挨拶等をはじめ, 多数の関係者, 研修生を加えて挙行された。
14:00より体育館にて, ロープ操法, 三角巾競技が開始され16:30まで2時間半熱戦が展開された。
3月27日(水) 雪上競技のため全員移動
競技役員7:00ホテル発, 猫魔スキー場に移動しセッティング, 予定通り9:30インスペクション。
10:30より競技が開始される。山頂部はみぞれ, 山麓部は雨と気温が低くなりはしたが, スノーセメントの効率が良くなってコースコンディションに変化が生じる事なく実施できた。
終了後公式記録作成も定刻にでき, 予定通り表彰, 閉会式が行なわれ, とどこうりなく全日程を終了した。
なお, 公式記録, 実施プログラムにつきましては別添の通りであります。

7. 所 見

わずかな競技タイムのために, シーズン・インと同時に訓練を開始し練磨して大会に臨むのだが, これらの技術をただ, タイムのみに置きかえてしまうのが惜しい気がする。
今迄のペナルティ審判と記録員のみが知り得たペルティを公開にして, 間違いを指差しての判定は好評であった。それぞれの競技を通じて反省事項を文章にして保管し検討して行きたい。
事前の準備から終了迄万全の体制をひいてくれた福島県スキー連盟, 地元の皆様に御礼を申し上げ次回大会の隆盛を期して所見としたい。

第6回全国スキーバトリール技術競技大会 総合成績公式記録 平成3年3月27日午後6時00分

NO	チーム名	三角巾操法タイム	順位	ロープ操法タイム	順位	ポート操法タイム	順位	総合タイム	総合順位
1	群馬県 A	130.47	7	136.48	1	207.02	4	473.97	1
2	岐阜県 A	160.85	16	211.96	12	308.76	19	681.57	17
3	千葉県 B	228.42	21	218.70	14	256.52	14	703.64	18
4	富山県 A	191.70	19	233.28	15	253.26	13	678.24	16
5	秋田県 A	155.52	14	148.98	3	222.35	6	526.85	5
6	岩手県	154.06	13	241.80	16	219.62	5	615.48	12
7	宮城県 B	139.82	9	164.76	6	286.71	16	591.29	9
8	福島県 B	95.35	1	138.12	2	245.98	12	479.45	2
9	東京都 A	183.80	18	287.62	20	292.95	17	764.37	19
10	山形県 A	110.00	4	195.02	8	202.38	1	507.40	4
11	長野県	152.70	12	246.82	18	224.44	7	623.96	14
12	石川県 A	142.53	10	154.36	4	232.70	9	529.59	6
13	福島県 A	114.60	5	160.50	5	206.36	3	481.56	3
14	秋田県 B	157.36	15	215.22	13	237.63	10	610.21	11
15	岐阜県 B	144.07	11	205.50	11	205.96	2	555.53	8
16	福島県 D	130.91	8	270.70	19	226.91	8	628.52	15
17	宮城県 A	107.70	2	244.04	17	271.22	15	622.96	13
18	福島県 C	108.17	3	197.94	9	241.26	11	547.37	7
19	北海道 A	224.53	20	200.08	10	345.22	20	769.83	20
20	北海道 B	164.22	17	355.64	21	424.16	21	944.02	女子 1
21	青森県 A	120.51	6	184.58	7	299.10	18	601.19	10

競技委員長 高橋 賢一

第7回 全国スキーボートロープ技術競技大会公式記録

平成4年4月9-10日

奈良高高原スキー場

競技委員長 高橋 賢

02/04/10

男子	三谷山	ロープ	室内	競技	総合	総合	総合	総合	総合		
順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位	順位		
1	144:42	7	1:50:32	8	5	2:54:38	9	1:51:00	13	10	6
2	1:19:31	1	1:24:44	5	12	7:2:15	16	1	51:00	4	2
3	1:49:43	9	3:40:46	16	16	3:1:46	12	54	0	5	16
4	2:29:46	4	3:1:62	15	13	3:13:63	15	57	0	8	13
5	5:0:67	11	1:33:2	2	4	3:2:95	14	54	0	5	11
6	1:40:19	6	4:9:00	8	17	3:22:38	17	1:6	0	17	8
7	1:25:37	2	2:51:62	13	10	2:42:62	5	1:0	0	10	7
8	2:29:57	14	1:48:26	7	10	2:42:62	5	1:0	0	10	7
9	2:6:96	12	1:36:2	5	6	3:26:13	18	56	0	7	8
10	2:15:81	13	2:52:16	14	15	2:58:70	10	1:5	0	13	15
11	1:51:97	10	2:24:66	11	8	3:22:87	16	50	0	3	12
12	3:8:68	19	4:36:38	19	19	4:57:21	19	1:6	0	17	19
13	2:51:50	17	1:36:32	3	31	2:49:38	6	1:5	0	13	10
14	1:27:63	3	1:33:68	3	1	2:25:79	3	48	0	2	1
15	1:39:71	5	1:33:62	4	3	2:17:69	2	45	0	1	2
16	1:46:24	8	1:23:92	1	2	2:36:78	4	59	0	1	3
17	2:40:92	16	1:56:56	10	14	3:6:50	13	1:5	0	13	14
18	2:52:15	18	3:57:14	17	18	3:0:82	1	1:0	0	18	18
19	2:38:49	15	1:51:52	9	12	2:52:91	8	1:1	0	11	11
20											
21											

M4

学校体育スキー部報告

担当理事・部長	片岡 春夫
スーパーバイザー	古谷 金助
委員長	後藤 守作
副委員長	中村 啓二
委員	藤田 嵩夫
	藤田 澄夫
	古賀 雄二
	古賀 山俊
	古賀 永滋
	古賀 本一
	古賀 田建
	古賀 司

- * 当部の担当事業は、小、中、高校並びに特殊学校の教職員を対象とした学校体育のスキーに関する関係者へのスキー講習会が唯一のものであるが、今年度は本事業を開始して第6回を経過した訳ですが、年々申し込み者の増大により、その対応に困難を来たすまでになった。現在までは、有資格者の申し込み者を調整対象として来たが、今年度はそれでも定員オーバーとなり、その対応に苦慮した。
好評な理由としては、デモ、専門委員による直接の指導の他、校種別のミーティング、事例発表、研究発表があり、一般のスキー講習会と異なり相当充実した内容が、重要な理由と推測される。
特に文部省後援の関係で受講者が出張扱い、公用扱い等のメリットもあり今後益々参加申込の増大が予測され、これに対する抜本的な対策が必要となって来る。
- * 今年度の反省としては、参加者の無断キャンセルが相当数出た。申込者の増大と調整をしておの参加者の決定をしていることに対し全く残念なことであり、次年度は参加料の事前徴集等、なんらかの対策が必要。
- * 来シーズンはインタースキーの三部会の一つである国際学校スキー部会(I.V.S.S.)の総会開催が真近かとなり、開催に向けて早急に実行委員会・組織委員会を構成しこれらへの対応を計らねばならない。
- * スキー修学旅行指導教本の発刊については表題として「初めてのスキー教室」とし編集委員、執筆者の選任を行い今秋の発刊に向け現在最終段階に至っている。
発刊に当たっての基本方針として、
 (1) 対象は修学旅行・スキー教室等で指導するスキー指導者、及び計画をする学校関係者並びに並びに参加児童生徒へ向けたもの。
 (2) スキー教程の副読本とする。
 (3) 楽しく正しいスキーの知識・技術を平易にイラストや写真を多用して解説し参加者が理解しやすいものとする。
 (4) 文部省推薦を取る。